

ボーリング柱状図

調 査 名 (仮称)アイランドシティ線 概略地質調査業務委託(その2)

ボーリングNo							
---------	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 11			調査位置	福岡市東区香椎照葉3丁目地内							北緯	33° 39' 37.6"		
発注機関	福岡市役所住宅都市局都市計画部					調査期間	平成 24年 2月 22日 ~ 24年 3月 1日					東経	130° 25' 1.9"		
調査業者名	(株)ジオテック技術士事務所 電話 (092-476-1700)			主任技師	矢野 健二		現場代理人	木寺 将仁		コア鑑定者	木寺 将仁		ボーリング責任者	高橋 敏行	
孔口標高	TP +3.19m	角 180° 上 90° 下 0° 度	方 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 向	地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	ワイビーエム YBM-05型			ハンマー落下用具	半自動落下装置				
総掘進長	25.00m					エンジン	ヤンマー NFAD8型			ポンプ	ワイビーエム GP-3型				

標尺	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状 図	土質 区分	色調	相對 密度	相對 稠度	記 事	孔内 水位 (m) ／ 測定 月日	標準貫入試験						原位試験		試験採取		室内 試験 (月 日)	掘 進 月 日			
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃 回数 ／ 貫入 量 (cm)	深 度 (m)	試験 名 および 結果	深 度 (m)	試験 採取 方法						
												0 ／ 10	10 ／ 20	20 ／ 30											
1	2.19	1.00	1.00		粘土質砂	褐			0.7mまではマサ土による盛土で雲母片多くや粘土質。 層下部は礫まじりシルト質砂状を呈する。	2/22 3/20 3/22	1.15	3	3	4	10 30	10									
2											1.45														
3					砂	褐灰	非常に緩い		埋土 GL-2.40m付近までは、細砂主体でサラサラしており細粒分の混入が殆どない。貝殻片を混入する。 GL-2.40m以深は中～粗砂主体となり、含水が多くなる。白色貝殻片を混入する。 GL-4.70mおよび-4.85m付近に安山岩質硬質礫混入する。		2.15	1	1	1	3 30	3									
4											2.45														
5	-1.81	4.00	5.00								3.15	1	1	1	3 30	3									
6											3.45														
7					シルト混じり砂礫		中位の		埋土 層上部では、中砂主体で礫分の混入はまばらである。 層中部以深では安山岩質の硬質礫が多く混入し、粘土まじり礫質土状を呈する。 礫分はφ50～150mm程度であるが、玉石も混入すると想定される。 部分的にシルト分を多く混入し、軟質な箇所がある。		4.15	1	2	1	4 30	4									
8	-4.81	3.00	8.00								4.45														
9											5.15	4	3	5	12 30	12									
10					砂	褐灰	中位の		埋土と考えられる。 中～粗砂主体で、細粒分の混入は殆どない。 層下部では細砂の混入が多くなる。 GL-8.7m付近は局所的に上層からの混入物と考えられる砂礫が混じる。		5.45														
11	-7.71	2.90	10.90								6.15	7	12	8	27 30	27									
12	-8.61	0.90	11.80		粘土	暗灰	非常に軟かい		沖積粘土 含水量多く、非常に軟質な粘土。砂分を少量挟在する。		6.45	1 25	2 5	3 30	3										
13	-9.31	0.70	12.50		粘土質砂	暗灰	緩い		沖積土 砂分主体だが細粒分を混入する。		7.15														
14	-11.26	1.95	14.45		砂混じり粘土	暗灰	軟かい		沖積粘土 指圧で容易に凹む程度に軟質である。 砂分を不規則に混入し、層下部では砂の混入が多くなる。		7.45														
15	-11.76	0.50	14.95		砂質シルト	暗褐			洪積粘土 不植物を混入する。		8.15	3	3	4	10 30	10									
16											8.45														
17					礫混じりシルト質砂	暗青灰	中位の		細粒分と砂分が互層状に混じる。 特に層上部は粘土分を多く含んでおり、試験料は粘性を帯びている。 花崗岩系の石英・長石の粗砂や細礫を混入する。 GL-17.9m付近には、φ20mm程度の石英礫を混入し、長石と考えられる白色鉱物局所的に多く混入する。		9.15	4	5	5	14 30	14									
18	-15.71	3.95	18.90								9.45														
19	-16.21	0.50	19.40		粘土	褐灰	中位の		腐植木片を多量に混入する。 部分的に軟質である。		10.15	3	4	4	11 30	11									
20					粘土混じり砂礫	淡緑～淡黄褐	非常に密な		花崗岩質の砂分および礫分を主体とする。 φ5～15mm程度の亜角礫を多く混入する。 締まりが良く、硬質である。		10.45														
21	-18.01	1.80	21.20								11.00														
22					風化砂岩・頁岩互層	青灰			古第三期の砂岩頁岩互層 GL-23.5mまで風化凝灰質砂岩で、φ2～10程度の礫を混入している。 棒状のコアで採取されるが、部分的に風化が進行し、固結土状を呈する。 GL-23.5m以深は風化砂岩 主に岩片状～短棒状のコアで採取される。 ハンマー強打で濁音を発し割れる。	2/22 3/20 3/22	11.45														
23											12.15	2	1	1	4 30	4									
24											12.45														
25	-21.81	3.80	25.00								13.15	1	1	1	3 30	3									
											13.45														
											14.15	1	1	1	3 30	3									
											14.45														
											15.15	6	10	7	23 30	23									
											15.45														
											16.15	6	6	6	18 30	18									
											16.45														
											17.15	9	11	11	31 30	31									
											17.45														
											18.15	13	13	11	37 30	37									
											18.45														
											19.15	1	2	4	7 30	7									
											19.45														
											20.15	20	25	5 3	50 23	65									
											20.38														
											21.15	13	22	15 7	50 27	56									
											21.42														
											22.15	14	22	14 6	50 26	58									
											22.41														
											23.15														
											23.25														
											24.10														
											24.15														
											25.00														
											25.05														

- ・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があります、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
- ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。